

[成果情報名] ブドウべと病に対する花穂の感受性と有効薬剤

[要約] 展葉7枚期頃のブドウ花穂はべと病に対する感受性が最も高い。生育初期に用いる予防薬剤はドーシャスフロアブル、オーソサイド水和剤80が有効である。

[担当] 果樹試・環境部・病害虫科・綿打享子

[分類] 技術・普及

[背景・ねらい]

ブドウべと病は葉や花穂、幼果に発生するが、特に花穂や幼果に発生すると実被害が大きく問題となる。近年では、2010年に欧州系品種を中心に花穂や幼果に本病の被害が認められ、県下全域で多発生となった。そこで、葉、花穂、果房における時期別の感受性を明らかにするとともに、生育初期に有効な防除薬剤を選定する。

[成果の内容・特徴]

1. ブドウの花穂は、花蕾がついている部位の穂軸が見え始める時期から果粒の大きさが大豆大よりやや大きい時期までべと病に感染する。展葉7枚期頃の花穂は他の時期の花（果）穂と比較し、感受性が最も高い（表1、図1、図2）。
2. 展葉7枚期、9枚期頃の新梢では、基部に近い葉と比較し、先端に近い葉で病気の進展が早い。特に展葉7枚期頃は、花穂における病気の進展も早く発病程度も高い（図2）。
3. ドーシャスフロアブル2000倍、オーソサイド水和剤80 800倍はべと病の防除効果が高い（表2、表3）。

[成果の活用上の留意点]

1. 花穂および葉の感受性を調査した試験は、「赤嶺」を用いて実施した。
2. 花蕾がついている部位の穂軸が見え始めると、べと病に対する感受性は急速に高まるため、生育状況に注意し予防散布を徹底する。
3. ドーシャスフロアブル2000倍、オーソサイド水和剤80 800倍の散布時期は防除暦に準ずる。

[期待される効果]

1. ブドウべと病の防除が徹底され、ブドウの安定生産が図られる。

[具体的データ]

表1 ベと病菌に対する花穂の時期別感受性（接種試験）

| 接種時期 (生育ステージ) | 2013年 | | 2014年 | |
|------------------|-------------|-------------------|-------------|------|
| | 花穂長 (cm) | 発病度 ^{z)} | 花穂長 (cm) | 発病度 |
| 展葉3~4枚 | 3.0 | 0 | 3.5 | 15.0 |
| 展葉5枚 | 7.1 | 15.8 | 6.9 | 61.3 |
| 展葉7枚 | 12.6 | 52.5 | 13.7 | 100 |
| 展葉9枚 | - | - | 20.1 | 42.5 |
| 開花直前 | 21.6 | 16.7 | - | - |
| 小豆~大豆大 | - | 10.2 | - | 25.0 |
| 大豆大以上 | - | - | - | 2.5 |

z)発病指数 全体の面積に対する発病面積 0:なし、1:10%以下、2:11~30%、3:31~50%、4:51%以上

発病度 = (指数 × 程度別発病房数) × 100 ÷ (4 × 調査房数)

供試品種：赤嶺

供試花穂数：2013年 15~22花穂、2014年 20花穂(大豆大以上は8果房)



図1 展葉7枚期頃の花穂の状況(赤嶺)

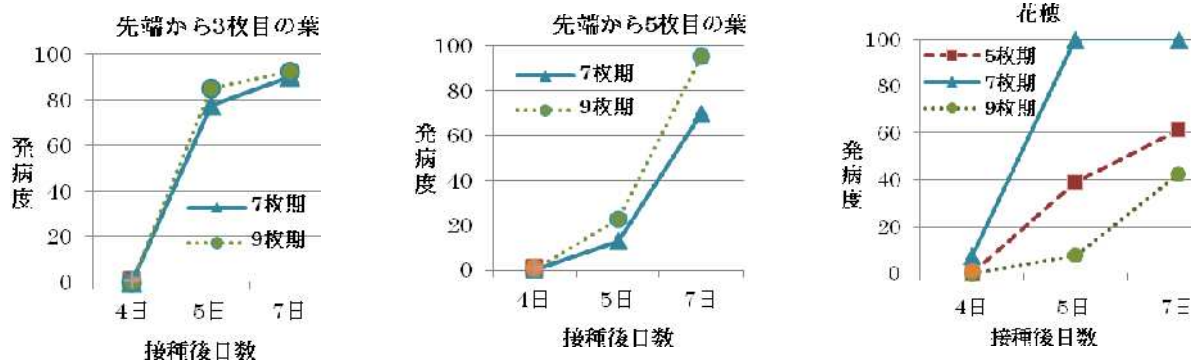


図2 ベと病菌を接種した展葉5枚、7枚、9枚期の葉と花穂における発病状況（2014年）

供試品種：赤嶺 供試花穂数：20花穂 供試葉数：10葉 接種月日：展葉5枚期 5/16、7枚期 5/24、9枚期 5/26

表2 ブドウベと病に対する各種薬剤の防除効果
(2012年室内接種試験)

| 供試薬剤 | 希釈倍率 | 散布翌日 接種 | 散布14日後 接種 |
|----------------|------|------------|-----------------|
| ドーシャスフロアブル | 2000 | 0 | 0 |
| オーソサイド水和剤80 | 800 | 0 | - ^{z)} |
| ジマンダイセン水和剤 | 1000 | 0 | 3.6 |
| ホライズンドライフフロアブル | 2500 | 0 | 21.4 |
| アリエッティ水和剤 | 800 | 78.6 | 100 |
| 無散布 | - | 100 | 100 |

供試品種：甲斐路 値は葉の発病度

調査葉数：1区7葉

薬剤散布：7月25日

調査月日：8月2日(翌日接種)、8月16日(14日後接種)

z)2011年にネオマスカットを供試した試験では発病は認めていない

表3 ブドウベと病に対する各種薬剤の防除効果
(2012年圃場試験)

| 供試薬剤 | 希釈倍率 | 発病葉率 (%) | 発病果房率 (%) |
|-------------|------|-------------|--------------|
| ドーシャスフロアブル | 2000 | 0 | 0 |
| オーソサイド水和剤80 | 800 | 0 | 0 |
| ジマンダイセン水和剤 | 1000 | 0 | 0 |
| 無散布 | - | 84.4 | 73.8 |

供試品種：赤嶺 値は2区平均値

調査葉数：100葉 調査花穂数：55~85花穂

薬剤散布：6月15日

調査月日：7月2日(薬剤散布17日後)

[その他]

研究課題名：省力・環境負荷低減型防除技術の開発

予算区分：県単

研究期間：2010~2014年度

研究担当者：綿打享子、村上芳照、内田一秀、功刀幸博